

参議院選挙で審判を！「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2013年7月17日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

医療制度の拡充か？破壊か？ 医療も大争点

選挙後8月に国民会議がまとめを答申 政府は遅くとも春までに法改定めざす

参院選後の8月、自公民で決めた「社会保障制度改革国民会議」が答申をまとめます。政府は、直ちに法案を作り、来年の通常国会までに成立させようとしています。

議論されている内容は、給付内容の縮小、保険料の値上げと患者負担増です。今でも、地域医療が崩壊し、お金がなくて命を失う事態です。まさに、国民会議が時代遅れとする「いつでも、どこでも、お金の心配をせずに、求められる医療が受けられる」ように、拡充すべきです。

財源問題も焦点に ○企業などの応分負担で

×消費税増税 ×「お金がないから混合診療」

選挙の時には、医療制度の改悪を考えている政党まで、「充実する」と訴えています。一方、財源問題は曖昧にしています（地方紙でも主張）。消費税増税に賛成した政党も沈黙。混合診療を主張する政党もあります。お金がない訳ではありません。大資産家や利益を上げている大企業に応分な税金や保険料を負担してもらおうと財源は生まれます（法人税の実効税率は40%ですが、ソニーが12.9%など大企業は優遇されています）。

	日本	イギリス	ドイツ	フランス	イタリア	スウェーデン
その他	22.4	23.7	25.7	35.4	37.7	
その他の税	38.8	11.5	6.2	8.4	14.2	
消費税	24.6	10.1	21.0	8.4	14.2	
国民健康保険	7.6	28.9	15.6	8.4	14.2	
本人負担	11.8	34.0	43.6	39.0	36.4	
事業主負担	24.0					
事業主負担率	21.4					

自公民が決めた国民会議での議論している「必要なときに、適切な医療を、適切な場所で、最小の費用で受ける」医療とは？

■入院ベッド減らす（地方のベッドも減）（必要ベッド数）の見込み



※「社会保障審議会医療部会2011年12月1日資料」より

- 入院期間はさらに短く（追い出し）
- 保険料の値上げ、保険料に応じた医療
- 保険きかない医療を拡大・混合診療
- 高齢（終末）期は何もしない条件づくり
- 70歳から74歳の医療費は2倍に

「白老町立病院の存続を」二人の女性から運動はじまる

今、白老町（人口18861人）で、「白老町立病院廃止に反対する署名」が広がっています。同町に住み定期的に町立病院を利用している山本容子さん(80)と芳阜子さん(66)がはじめた署名は、地域の勤医協友の会でも、取り組んでいます。



私たちの目標は「患者さんに信頼され、笑顔と思いきりのある病院」づくりです。

白老町立国民健康保険病院 写真はHPから
町内唯一の病院（一般58床 老健29床）

国保病院は原則廃止することが望ましい」とする答申書を提出したことです。付帯意見として、地域医療を守るため、救急と小児医療を民間病院に移譲することも検討するように求めています。

地元紙は、答申書を受け取った戸田町長は「深く重く受け止めた。付帯決議もしっかり認識したい」と述べ、町側は、庁内に設置した町立病院運営基本方針策定委員会で、今後の方向性をまとめる作業に入り、来年度予算編成の検討が始まる11月頃までにまとめる財政健全化全体計画の中で方針を示すとしていると報じています。

山本さんたちが取り組んでいる署名のお願い文書から

- 町の財政難だけを理由に、町民の生命を守る町立病院を性急に廃止することに、強い疑問を感じます。私事、この度急病で町立病院を利用し、地元駆け込む事のできる病院があつて良かったと痛感しました。
- *町立病院は初期治療を提供し、救急医療の体制を維持する大切な病院です。もしその体制が無くなると助かる命も助けられなくなります。
 - *風邪・腹痛・慢性病など地域病院で対応できるものも無くなると、近隣の街にJR、バスなどを乗り継いでいかなければならず、時間も費用も大きな負担になります。
 - *医療に不安の町は、特に高齢者には住みにくく、流失していきます。そして町の過疎化につながります。